

# 70年の歴史と専門先端治療で地域医療に貢献

福岡市中央区にある医療法人佐田厚生会 佐田病院は昨年11月に開院70周年を迎えた。1991年1月、佐田正之院長は患者の負担を最小限にするために他に先駆けて内視鏡下手術を導入し、その症例数は間もなく1万例に達しようとしている。中でも胆石症に関する内視鏡下手術は2010年末で5475例を数え、全国の病院の中で第1位の症例数を誇る。また、近年はこの豊富な経験と優れた技術を基礎に、胆石症やせきいヘルニア、手掌多汗症などの疾患に対して日帰り手術を数多く行っており(2010年末現在4751症例)、その評判は全国区となり毎日多くの患者が来院している。

外科で有名な佐田病院だが、脊椎脊髄外科を中心とした整形外科と胃腸・大腸疾患の治療や検査を中心とした消化器内科についても優れた技術と伝統を持っており、医療業界の中で確固とした地位を維持している。今回は藤原将巳整形外科部長を紹介し、佐田病院整形外科の特徴や治療概要、展望について話を聞いた。

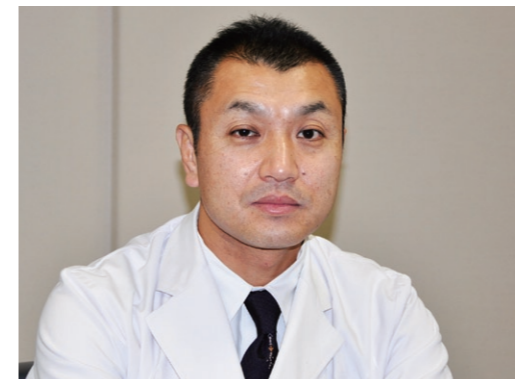
## 増加する整形外科、脊椎・脊髄病患者に4人体制で対応

### 救急指定病院として合併症、糖尿病にも配慮

— まずは、整形外科部門の特長を教えてください。

藤原 私の専門は脊椎脊髄(せきつゝい・せきずい)病ですので、主に腰痛や頸部(けいぶ・首の部分)の痛み、痺れ、下肢痛、運動障害が対象となります。具体的には腰椎間板ヘルニアやタレントみのもんた氏が手術されたことで有名になった疾患「腰部脊柱管狭窄症」、坐骨神経痛、スポーツ選手に多い疲労骨折「腰椎分離症」などです。

— 現状はいかがですか。



藤原 将巳(ふじわら・まさみ)整形外科部長  
福岡市出身、1965年6月17日生まれの45歳。福岡高校—佐賀医科大学を卒業後、九州大学医学部付属病院整形外科、明治記念病院、総合脊髄センター勤務を経て、1994年4月に佐田病院整形外科勤務。97年に整形外科医長、08年に整形外科部長に就任。九州電力キューデンヴォルテクスのチームドクターも務めている。

藤原 近年感じるのは、高齢者の患者さんが増えてきたことです。特に70歳〜80歳代、場合によっては90歳代の患者さんです。現状はいかがですか。



佐田病院ロビー内

で「腰部脊柱管狭窄症」の手術が増加しています。以前は高齢患者に対する手術の適用は少なかったですが、治療技術と設備向上で手術が身近な存在になりました。

— 脊椎脊髄は中枢神経が集まる重要な組織ですから、手術となると慎重になりますね。

藤原 そうです。脊椎・脊髄を扱う手術は整形外科全体の手術の中でも難易度が高く特殊ですので、患者さんとご家族の方と時間をかけて納得いくまで話し合い最終的な選択をします。

— 当院では04年から「顕微鏡下手術」を導入しており、独ライカ社製手術用顕微鏡で対象部位を明るく拡大した三次元的視野での手術が可能になりました。繊細さがより必要な脊椎・脊髄手術であっても安全に手術できます。しかし、合併症という危険もゼロではありませんから、しっかりと治療方針を立てて説明し、そのうえで最良の治療方法を決めていきます。

— 当院は救急指定病院ですので、感染を含めた合併症や糖尿病の患者さんがいけるように努力しています。部長というよりは、リーダーとして整形外科部門の意思の疎通を図ることでチーム全体を盛り上げていきたいと考えています。

— スタッフ構成はどうですか。

藤原 現在、私を含む常勤医師が2人、6年目と8年目の若手医師2人の4人体制です。毎年2人、九州大学から新しいスタッフが当院に配属されており、1年間当院で学んだ後、巣立っていきます。今のスタッフは非常に元気があって刺激を受けていますよ(笑)。

— 今後、その教えや志を若手に伝えていく必要がありますね。

藤原 気付けば、私もいい歳になっていますからね(笑)。特にこの分野はハードで精神的な強さも求められます。厳しいですが大きなやりがいもありますので、今後は整形外科部門を支える新しい人材を育てていきます。

— 今後の抱負をお願いします。

藤原 できれば全国の実績ある病院を数多く訪問見学し、様々なものを吸

— 症例実績はいかがですか。

藤原 脊椎脊髄手術で年間約2000症例手掛けています。骨折や関節症を含めると、昨年は540症例(09年は500症例)と年々増加しています。当院は福岡市内でも有数の脊椎脊髄手術症例数を誇っており、整形外科開業医や一般病院、脊椎外科のない総合病院からの紹介患者さんが多いのも当院の大きな特徴となっています。

— 顕微鏡下手術による症例実績はいかがですか。

藤原 これまで8年間で約1700症例を手掛けました。昨年8月には頸椎椎間板ヘルニアの新しい治療法で、首の後方から小切開する「顕微鏡下椎間孔開窓術とヘルニア摘出術」を導入し、すでに4症例実施しています。1cmの穴に切開して骨を削除し、顕微鏡



顕微鏡下手術中の藤原医師(左)と秋山徹医師(右)。秋山医師とペアを組んだのは2004年4月。以降、5年間に1000症例を経験した

— 脊椎脊髄外科を志望した理由は。藤原 脊椎脊髄外科医になったのは、当時、副院長だった秋山徹先生(現佐田病院顧問医、秋山とおる整形外科院長)の影響が大きかったですね。それまでは外傷外科、関節鏡を中心に行っていました。秋山先生と一緒させていただいて顕微鏡下手術を含む「脊椎脊髄手術のいろは」を学びました。

— 秋山先生とは師弟関係ですか。藤原 そうですね。手術は師弟関係で教えてもらうものですから、同じ

## 秋山医師に師事し、通算1700症例を経験

### 顕微鏡下手術導入で高齢患者の不安と負担を払拭

— 脊椎脊髄外科を志望した理由は。藤原 脊椎脊髄外科医になったのは、当時、副院長だった秋山徹先生(現佐田病院顧問医、秋山とおる整形外科院長)の影響が大きかったですね。それまでは外傷外科、関節鏡を中心に行っていました。秋山先生と一緒させていただいて顕微鏡下手術を含む「脊椎脊髄手術のいろは」を学びました。

— 秋山先生とは師弟関係ですか。藤原 そうですね。手術は師弟関係で教えてもらうものですから、同じ

多い。手術が必要な場合は掛かり付けの先生と情報を共有し、内科スタッフと手術前の精密検査や手術を行うかの最終判断など一連の過程が重要になります。専門になればなるだけ幅広い症状を念頭に入れないといけない難しさがありますね。

— 治療法について教えてください。

藤原 多くの場合は一過性の疼痛で時間とともに軽減していきますが、症状が強い場合は痛み軽減策として①薬物治療②リハビリ治療③神経ブロック治療④運動療法の指導などを行います。それでも症状が改善しない場合は手術ということになります。手術の場合、基本的には対象部位を最小限度皮膚切開し、顕微鏡下で神経を圧迫する靱帯、ヘルニア、腫瘍などを摘出します。脊椎脊髄病には様々な疾患の種類がありますので、術前術後の疼痛管理は状況に応じて対応しています。

— 手術用器械も顕微鏡や内視鏡の開窓器、器具などを使用し、筋肉や骨組織、神経組織に対する低侵襲手術(※1)も数多く行っています。術後は約95%の患者さんが翌日から歩行可能。ほと

— 取りたいですね。これまで年間5回以上、手術方法や臨床結果など全国規模の脊椎・脊髄専門学会、地方会で論文発表をしていますが、意見・情報交換する度に「目からうろこ」の状態になります。良いものは積極的に取り入れる。それが、結果的に患者さんの治療結果に還元できますからね。

— 今後は整形外科の一員として手術の結果に全力を尽くす。患者さんが笑顔で退院していく姿を見るのが一番の原動力です。そのため努力していきます。

医療法人 佐田厚生会

# 佐田病院

救急指定病院・開放型病院 日本医療機能評価(Ver6.0)認定病院

理事長・院長 佐田正之

〒810-0004 福岡市中央区渡辺通2-4-28  
TEL/FAX: 092-781-6381

受付時間 月～金8:30～17:30 土8:30～12:00

専門 外科、内科、整形外科、消化器内科、循環器内科、リハビリ科  
日帰り手術センター、内視鏡センターなど



※1) 手術・検査などに伴う痛みや発熱・出血などをできるだけ少なくする治療。患者の負担を軽減し、早期回復を図る